

図書館

とよだより

だより

問い合わせ先

泗水図書館 ☎0968 (38) 6866
 中央公民館図書室 ☎0968 (25) 1672
 七城公民館図書室 ☎0968 (25) 1580
 旭志公民館図書室 ☎0968 (37) 3111
 内線303

閉館日・閉室日

泗水図書館 月曜日・月末・祝日
 中央公民館図書室 火曜日・第1日曜日・祝日
 七城公民館図書室 日曜日・祝日
 旭志公民館図書室 日曜日・祝日

※図書イベント情報は、32ページの行事予定に掲載しています。



こんにちは、泗水図書館です。雑誌コーナーには約84タイトルの雑誌を揃えています。新刊以外は貸出ができませんので、どうぞご利用ください。(泗水図書館)

新着・お薦め図書

泗水図書館

県庁おもてなし課 有川 浩 著
 天草独立戦記 浜路一三 著
 鼠、影を断つ 赤川次郎 著
 感染遊戯 菅田哲也 著
 パルテュス、自身を語る アラン・ヴィルコンドレ 著
 うなドン 南の楽園によるり旅 青山 潤 著
 たのしいジュニア手芸 改訂新版 [全6巻]
 森のみずなら 高森登志夫 絵

中央公民館図書室

モルフェウスの領域 海堂 尊 著
 お順 上・下 諸田玲子 著
 平凡倶楽部 こうの史代 著
 おいしい中国 「酸甜苦辣」の大陸 楊逸 著
 ブルーローズの謎 松本祐子 著

七城公民館図書室

終電へ三〇歩 赤川次郎 著
 はらぺこブのおべんとう 白土あつこ 著

旭志公民館図書室

ダークゾーン 貴志祐介 著
 コドモザウルス 土屋富士夫 著

こぼれ話のミステリー

赤ちゃんの時、両親をなくしたベツツイーは、町に住む大おばさんのもとで、それはそれは大切に育てられました。ある時、大おばさんが病気になるまで、ベツツイーは田舎の親せきの家であずかっただけのことに。泣き虫で、人にたよってばかりいたベツツイーは、全く新しい生活に・・・。

わたしは、ふつうの物語は、親せきなどに育てられたら、めしつかいのようにつかわれるけど、この物語は、ベツツイーを大切に育てて、ふしぎだなと思えました。前の生活とは全くちがうのに、ベツツイーがたくましく成長していくすがたは、何度読んでも勇



源 花央里さん (菊池北小4年)

気・元氣・そしてがんばろうと思っただけがもたえます。ベツツイーの成長とともに自分にも元氣がもたらえる一冊です。

耳より情報

図書館情報管理システム導入記念！図書館スタンプラリーを開催します

市内4カ所の図書館・図書室をまわってスタンプを集めましょう。全部のスタンプを集めると記念品をプレゼントします。詳しくは各図書館(室)へお尋ねください。

期 間 7月1日(金)～9月30日(金)
 ※記念品がなくなり次第終了します。

古典を楽しむ会を紹介します

毎月第3土曜日の午後2時から、講師の中山隆一先生を囲んで「枕草子」を楽しく学んでいます。随時会員を募集していますので、のぞいてみませんか?(泗水図書館)

図書館バスツアーに参加しませんか？

スタンプラリー期間中に図書館バスツアーを開催します。市内4カ所(泗水・中央・七城・旭志)の図書館(室)を巡ります。

と き 7月23日(土)午後1時～

ところ 泗水図書館集合

定 員 先着20人

参加費 無料

申込期間 7月1日(金)～7月15日(金)

※定員になり次第締め切ります。

申込方法 各図書館(室)に置いてある申込用紙に必要事項を記入して、窓口へ提出してください。電話での申し込みは中央公民館☎0968(25)1672までお願いします。

万句の里俳句会 4月例会

夫になき月日や曾孫入学す 打出 貞
 芽山椒の香をふんだんに厨事 隈部 輝子
 囀りや登りゆくほど賑やかに 田島 房子
 小流れの優しくなりし桃の花 加藤 妙子
 黄すみれの彩をこぼせる阿蘇野かな 北村 妙子

せせらぎ俳句会 4月例会

筍や生まれし土の香をまとひ 五丁 義昭
 待ち侘びし春はとどまることもなく 村山 数恵
 ランドセル被災の海に慟哭す 藤本 邦治
 恵まれた身と知りながら春愁う 渡辺 一史
 たんぽぽの丸いおかつぱ頭かな 渡辺 大寿

旭志文芸俳句会 4月詠草

末黒なる野焼きのあとやうす緑 芹川のり子
 生垣や光り眩しき新芽かな 中尾ヨシコ

肥後狂句水笑会 4月例会

芹を摘む媼に厳し寒戻る 東 芳子
 初蝶のよろめく風や日の浅し 芹川 蓉子
 新発意の袈裟新しき彼岸かな 東 芳子

肥後狂句桜会 4月例会

埃だらけ 客の来てから慌てさす 田中レイコ
 立入禁止 媽が地雷の埋まるとる 田尻 浩風
 増え過ぎて 危険信号出す臓器 高木 房恵
 立入禁止 札立てとらす我が釣り場 高倉 新米
 アレッ コはさつきも通ったぞ 辻 弘喜

肥後狂句水笑会 4月例会

春うらら 竿の鈴さえ子守唄 続 義昭
 眠りこけ 猫が添い寝のお縁側 中島 五女
 飽きのきて 誓いの言葉忘れとる 吉岡 三水
 春うらら 日なたぼっこで舟がす 平井 江彩
 ちんちろ舞い 御斎の足らんごつな 山隈 好茶

七城短歌会 4月詠草

勤務地の遠くなりたる子の電話元気がひびく安堵するわれ 水田紗陽子
 窓越しの庭に餌拾う雀二羽番ひなりしか寄り添いのあり 齊藤 芳子

里短歌会 4月詠草

胸の内に精一杯の声だして四つ葉のクローバー一枚採りぬ 松岡みちえ
 朱に咲くをながらえ庭の八重椿落ちて間あらず色褪すいのち 高木 精
 鶯の鳴く声ふと聞く朝厨幾年ぶりぞ吉兆なるべし 池田カツ子
 畑を呑み家を車を街を呑み猛る津波に人は術なく 宮本 淑子
 海水の退かぬ被災地に雪降るをただ言葉なくテレビに見入る 上田 安代
 裏山の寒気残れる篋にうぐいす一声季節を運ぶ 松本 和子
 連れ合ひ蝶のいくつが風車雨の上がりし風なき空に 川口 敦子
 渓谷の木立の木の葉ふるわせて吾らの歌声谷下りゆく 松岡 節子



菊池短歌会 5月詠草

いよいよ今一望のわが郷かここよここよと大川光る 村上さき江
 山容少し変はれど鞍岳ここよりも見えて入院の日日癒さるる 山下 菊代
 庭隅に自が位置占むる「都忘れ」日いち日と色冴へてゆく 山代 静代
 日日映る惨事のなかに児らの声校庭かけまはる天使のごとく 余語やす子
 五年越しの河川工事の竣工し歩行者専用あゆみ橋に立つ 岩木 妙子